

## 深圳レポート

### 2025年4月の中国輸出入データが発表

中国の税関総署が5月9日に発表したデータによると、2025年4月の中国の輸出入総額は米ドルベースで5,352億ドル(前年同月比4.6%増)となった。そのうち、輸出総額は3,156億9,000万米ドルで前年同月比8.1%増、輸入総額は2,195億1,000万米ドルで前年同月比0.2%増、貿易黒字は961億8,000万米ドルであった。

#### 関税引き上げ圧力の中、4月の輸出は予想を上回る

	中国と米国の二国間物品貿易の概要(当月値)					
	金額(億米ドル)		2025年 前年比 (%)	比率		変化
	2024年 4月	2025年 4月		2024年 4月	2025年 4月	
中国の貿易総額	5,118.41	5,352.05	4.6	100.00	100.00	--
中国の輸出総額	2,919.14	3,156.92	8.1	100.00	100.00	--
中国の輸入総額	2,199.27	2,195.12	-0.2	100.00	100.00	--
中国の貿易収支	719.87	961.80	33.6	100.00	100.00	--
中米貿易額	564.03	455.90	-19.2	11.02	8.52	-2.5
対米輸出総額	418.20	330.24	-21.0	14.33	10.46	-3.87
米国からの輸入総額	145.84	125.66	-13.8	6.63	5.72	-0.91
対米黒字	272.36	204.58	-24.9	37.83	21.27	-16.56

米国トランプ大統領の関税引き上げの影響で、世界経済は減速し始めている。中国の4月の輸出増加率が世界経済と乖離した背景には、以下の要因が考えられる。

#### 1. 「中継貿易」の急増

4月の中国の対米輸出額は330億ドルと21カ月ぶりの低水準を記録し、前年同月比▲21%となった。中国の輸出に占める米国の割合は過去最低の10.5%まで低下し、米国による高関税導入前に輸出が前倒しされたことが、対米輸出のさらなる悪化につながった。

米国が中国製品に20%の関税を課したことを受け、2024年初頭から中継貿易が関税回避の主要手段となっており、新たな関税措置がこの傾向に拍車をかけた。4月のASEAN、ラテンアメリカ、香港向け輸出はそれぞれ前年同月比+20.8%、+17.3%、+8.8%増となり、特にASEAN向けは24カ月ぶりの高成長。ASEANが中国輸出に占める割合は19.1%と過去最高を更新した。

国別では、ベトナム(+22.5%)、タイ(+27.9%)、インドネシア(+36.9%)向け輸出が急増し、米国の圧力を受けてベトナムが中継貿易のハブとして機能する一方、他のASEAN諸国も中継地としての役割を強めている。

#### 2. 非米国地域との貿易強化

中継貿易に加え、EU(欧州連合)と日本向けの中国輸出も急成長を遂げている。4月のEU向け輸出は前年同月比8.3%増加し、中国の輸出総額に占める割合は13.7%から14.8%に拡大した。

米国との関税をめぐる対立の中で、中国とEUは協調姿勢を強め、経済貿易協力の深化が進んでいる。最近の中欧関係では、EUによる中国製電気自動車への関税見直し、スペインとの農業協定締結、往来制限の緩和など、関係改善の動きが顕著である。

対日輸出は2カ月連続で前年同月比7.8%増となった。日米貿易協定は先行して開始されたものの、自動車や鉄鋼・アルミニウム関税を巡る交渉が膠着状態にあり、第2回会合でも進展が見られなかった。これに対し、3月下旬以降、中日両国は官民レベルで活発な対話を重ね、数多くの合意に達している。中日協力の展望は明るさを増している。

#### 3. 価格戦略の採用

4月、中国の主要輸出商品の価格は平均6.9%下落した。品目別では、バッグ(▲16.3%)、靴・ブーツ(▲5.9%)、携帯電話(▲16.4%)、家電製品(▲4.0%)、照明器具(▲3.1%)、自動車(▲6.5%)などが値下がりし、価格競争力を高めて輸出量を拡大する戦略が鮮明となった。

中継貿易を活用しても、米国の10%関税を完全に回避することは困難であり、サプライチェーン全体でコスト圧力が高まっている。このため、輸出企業はリスク分散の観点から、収益性を抑えた価格設定を余儀なくされている。

#### 4. 対米輸出の減少幅が予想より小幅にとどまった背景

145%という超高関税は多くの産業の許容範囲を超えており、市場調査によると一物品目の対米輸出が停滞状態にある。しかしながら、中国の対米輸出総額は予測されたほどの減少を示さなかった。この背景には以下の要因が考えられる。

第一に、米国が通信機器、半導体、医薬品、鉄鋼・アルミ製品、自動車、木材など、中国の対米輸出の約20%を占める品目を追加関税の対象外としたことが挙げられる。これらの重要品目が関税免除となったため、輸出全体の落ち込みが緩和された。

第二に、800ドル以下の小型小包に対する免税制度が維持されている点が影響している。同制度の適用を受け

る中国発の小口貨物は依然として関税が免除されており、この結果、米国消費者向けのDHgateやTaobaoなどの中国系ECプラットフォームの利用率が急増している。

### 国別構造から見た4月の貿易動向

主要貿易相手国への輸出総額(百万米ドル)			
国	2025年4月	2024年4月	前年比
米国	33,024.00	41,819.60	-21.00%
アフリカ	18,045.30	14,402.10	25.30%
インド	11,184.70	9,189.90	21.70%
ASEAN	60,352.20	49,960.00	20.80%
ラテンアメリカ	24,853.00	21,194.30	17.30%
カナダ	4,150.80	3,608.90	15.00%
ニュージーランド	626.90	554.10	13.20%
EU	46,714.50	43,146.70	8.30%
日本	13,303.20	12,344.60	7.80%
オーストラリア	6,165.60	5,829.10	5.80%
イギリス	6,918.40	6,748.10	2.50%
韓国	12,706.90	12,745.70	-0.30%
ロシア	8,089.10	8,317.00	-2.80%

国別構造から見ると、4月の最大の特徴は、対米輸出の伸び率が大幅に低下した一方、非米国向け輸出が総じて増加したことである。

- ◆ 対EU輸出は、467億ドル(前年同月比+8.3%、中国輸出全体の14.8%を占める)で、専門家によると、その背景には中欧間の経済貿易関係の強化されたこと、4月のユーロ圏基準金利25bps引き下げにより景気が回復傾向になったこと、輸入需要増加(製造業PMI: 48.6%→49.0%、総合PMIは荣枯線を突破)されたことがあげられている。
- ◆ 対日輸出は、133億ドル(前年同月比+7.8%)で、中日間の協力・対話強化が挙げられている。
- ◆ 対ASEAN輸出は、過去最高の604億ドル(前年同月比+20.8%)で、特に中継貿易には単純な再輸出に加え、産業チェーン協力下での原材料・中間材の再加工が含まれている。
- ◆ 対アフリカ輸出の伸び率は、前年同月比+25.3%で、2か月連続で主要貿易相手国中首位となっている。中国による後発開発途上国向け関税優遇措置の拡大、つまりアフリカ33か国に100%関税枠適用がその背景となる。

### 輸入動向

中国の4月の輸入総額は、内需の好転を反映して前月比+3.9%回復となった。このうち、米国からの輸入は前年同月比▲13.8%となり、中国が対米125%相互関税を実施した影響が顕在化されている。EUからの輸入は前年同月比▲16.5%となっている。

その他地域は、香港(前年同月比+41.3%)、台湾(+12.7%)、アフリカ(+22.8%)からの輸入が大幅に増加し、ASEAN、日本、韓国からの輸入もプラス成長を維持している。

### 今後の輸出動向

今後の関税政策変更に注視が必要であり、中継貿易の受注ラッシュが下火になるにつれ、輸出データへの圧迫が懸念される。

5月12日、米中は貿易緩和合意に達し、34%の関税を「24%停止+10%維持」に分割し、90日間の猶予を設定した。この短い、しかし重みのある文書は、数ヶ月続いた関税戦争を一時的に緩和するとともに、世界貿易に「安定剤」を注入する意義を持つ。米中関税戦争は「全面対決」から「限定的なコントロール」へ移行したものの、10%の留保関税は貿易戦争前より依然高い水準である。

中国企業にとっては、長期的なサプライチェーン再編が迫られる可能性が懸念されている。

## 鹿客科技——スマート・セキュリティ分野の「解錠」

社名	鹿客科技（北京）股份有限公司	英語名	Lockin
代表者	陈彬	URL	<a href="https://www.lockin.com/">https://www.lockin.com/</a>
所在地	北京市北京经济技术开发区（通州）经海五路3号院15号楼4层		
売上(RMB)	-	従業員(人)	-
登録資本金	5,109.375万人民币元		
サービス内容	コンピュータ・ソフトウェア、ハードウェア、補助機器の卸売・小売、電子製品の販売など。		

スマートホームは、家電製品の単純な自動制御から、ネットワーク接続、リモートコントロールを経験し、その後、AI技術の台頭で、スマートホームに「知恵」の魂を注入した。かつては家電製品を手動で操作する必要があったが、今では簡単な音声コマンドを入力するだけで、自動的にタスクを実行できる。

セキュリティは基本的なニーズとして、スマートドアロックが家族のセキュリティのための防衛の第一線である。AI対応スマートドアロックは、一般的な指紋認証に加えて、顔認識、音声認識、手のひら静脈認識およびその他の機能を持つ様々な高度な識別技術を持っており、大幅にドアロックのセキュリティと利便性を向上させている。

鹿客科技（北京）股份有限公司（以下、Lockin）は、2014年5月に中国・北京で設立されたスマートホームセキュリティ分野に特化したハイテク企業である。「生活をより安全でより良いものにする」ことを使命とする同社は、技術革新とグローバル化を通じてスマートドアロック分野で主導的地位を獲得し、徐々に幅広いスマートセキュリティエコシステムへと拡大している。現在、北京AIoT研究開発センター、深圳ハードウェア研究開発センター、成都ソフトウェア研究開発センター、杭州マーケティングセンター、重慶製造センター、天津カスタマーサービスセンターの6つのセンターを設置している。

今年初め、LockinはCES 2025で新製品をデビューさせ、世界のフラッグシップLockin Veno 7 Seriesを発表した。これはソーラー充電をサポートし、Venokey™手のひら静脈認識技術を搭載した世界初のビデオ・スマートロックである。

### 手のひら静脈ロック解除、センサーレス開錠、精密ガード

Venokey™手のひら静脈認証技術により、Lockinは手を振るだけでご自宅のロックを解除し、利便性とセキュリティの完璧な融合を実現する。手のひら静脈認証は、手のひらの皮膚表面を通して手のひら全体の静脈画像を識別するもので、盗み見やコピーが難しいだけでなく、5万以上の手のひら静脈情報ポイントと500以上の特徴ポイントをカバーする大量の認識情報を持っており、双子でも正確に見分けることができ、顔認証よりも速く、正確で安全だ。

しかも、高齢者や子供でも簡単に操作できる。身長1.3～2メートルに対応する顔認証に比べ、手のひら静脈はより幅広い身長に対応し、1.15メートル以上であれば簡単に認識できる。

### パノラマ監視＋インテリジェントセンシング

同時に、手のひら静脈ロックは2K高精細カメラを搭載し、180°の広い視野を提供することができ、完全にドアの前の状況を制御し、AI駆動のレーザー＋PIRインテリジェントデュアル

センサーを使用して、ドアの外の車や人の動きを鋭く感知することができるだけでなく、正確に宅配便の荷物を識別し、リアルタイムリマインダーがユーザーの携帯電話に送信され、ちょうど玄関先の「賢い目」と「気配り家政婦」のようである。

### インテリジェントな連携とAIの強化

家全体のインテリジェンスの一部として、Lockin palm lockシリーズ製品はMi Homeスマートエコシステムに接続し、スマートスピーカーデバイスで遠隔解錠することができる。この製品は、ドアロックがピッキングされる、ドアの前に人が滞留する、何度も解錠が錯誤される、ドアロックの電池残量が少ない、などの状況に遭遇した場合、ローカルおよびオンラインでユーザーに警告リマインダーを送信する。

### ブランドマーケティング

Lockinは多角的なレイアウトとユーザーの開発というマーケティング戦略を採用している。

国内市場において、Lockinは2024年に「中国をリードするスマートロックブランド」と「消費者に好まれるブランド」の称号を獲得し、「ゴールデンフック賞」などの権威あるコンテストの称号を獲得し、技術ベンチマークのイメージを強化している。

グローバル化の面では、Amazon、Shopeeなどのプラットフォームを通じてCエンドを拡大し、海外のBエンド企業と協力し、元のドアロックを傷つけない設置ソリューションを提供することで、ユーザーの敷居を下けている。エコロジー協力の面では、シャオミ、サムスンなどのブランドと協力し、家全体のインテリジェントシーンに溶け込み、製品の互換性を向上させている。

AI技術の統合は、ハードウェア・デバイスをより賢くし、インタラクションをより人間的で温かみのあるものにする。スマートホームの分野でのAI技術の応用がますます広範で深くなることを期待し、AIがこの魔法の鍵を持ち、家庭生活の新しい章を開き、人間がより便利で快適な体験をもたらすようにする。



## 中国フードデリバリー業界が「三国志」の様相に

中国のデリバリーサービス、特にフードデリバリーの便利さは言うまでもありません。現在、中国のデリバリーサービス市場規模は1.2兆元(約24兆円)以上と推定され、1,000万人以上の配達員によって支えられています。インターネットやスマートフォンの普及に伴うライフスタイルの変化が、市場成長を後押ししているのです。

この業界では、1日あたり8,000万件以上の配達が行われていますが、フードデリバリー分野では長らく「美团外卖(Meituan Waimai)」と「饿了么(Ele.me)」の2社が市場を独占してきました。

美团外卖は市場シェア約70%で業界をリードし、中国全土の2,800以上の市町村をカバーしています。強力な配達網とユーザー基盤に加え、低価格戦略やホテル・旅行などの多様なサービスを展開しています。

饿了么はアリババグループ傘下でシェア約25%。支付宝(Alipay)との連携が強みで、主に一線・二線都市の高所得層をターゲットにしています。

しかし最近、大手ECプラットフォームの京東(JD.com)がフードデリバリー市場に参入を表明し、大きな話題を呼びました。CEOの劉強東氏が自ら配達を行うパフォーマンスを見せたこともあり、注文が殺到してシステムが一時ダウンするほど、ユーザーからの反響は熱いものでした。

1,000万人以上の配達員の多くは歩合制で働いており、収入維持のために長時間労働を強いられるといった社会問題が指摘されています。これに対し、京東は正社員の配達員に社会保険を提供することを宣言。さらに、飲食店向けには「手数料無料」と「高品質の店内飲食(堂食)に限定」という戦略で差別化を図っています。

京東の参入により、中国のフードデリバリー業界は「美团」、「饿了么」、「京東」の3社による「三国志」のよ

唯来企業管理諮詢(深圳)有限公司  
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。  
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



うな激しい競争に突入しました。各社は補助金(割引・クーポン)や新サービス(例:30分以内配達保証)で顧客の奪い合いを加速させています。多くのユーザーは、新規参入によって市場の独占が崩れ、サービス品質全体が向上することを期待しています。

日本では出前館やUber Eatsが主流ですが、楽天やLINE(配達提携)の参入もあり、同様の競争が起こる可能性があります。今後はAIを活用した配達最適化、無人配送、サステナビリティ(包装廃棄物削減)などが焦点となるでしょう。中国のフードデリバリー業界の「三国志」がどのように展開していくか、注目が集まっています。



京東の配達員がフードデリバリーをしている。



深圳未来创新服务中心  
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301  
TEL:86-135-3089-3085  
<https://micsz.jp/>